

A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
<p>W01: 殺虫剤抵抗性リスクコミュニケーション 世話人: 山本敦司、島克弥</p>	<p>W02: 縁尋機妙・昆虫生態学の牽引者から学ぶ(1) 西田隆義さんと愉快的仲間達 世話人: 安田弘法、金子修治、鈴木紀之</p>	<p>W03: 第1回アザミウマ研究会 世話人: 中尾史郎、土田聡</p>	<p>W04: 深化するガ類性フェロモンの真価2019 世話人: 藤井毅、櫻井健志</p>	<p>W05: 昆虫ゲノム編集研究: 基礎および応用への展開 世話人: 坪田拓也</p>	<p>W06: 第49回ハダニ談話会・果樹の難防除害虫研究会共催企画 世話人: 岸本英成、伊藤桂、中秀司、外山晶敏</p>
<p>W011 ○山本 敦司<sup>1,2</sup>・中島 信彦<sup>3</sup> (日本曹達株<sup>1</sup>・JIRAC<sup>2</sup>・農研機構生物機能<sup>3</sup>) 殺虫剤抵抗性リスクコミュニケーション2019 - 論点整理 -</p> <p>W012 須藤 正彬 (農研機構・茶病害虫U) 現実世界 (リアル) で失敗できないので抵抗性発達をモデルで予測: 複数剤を用いた管理戦略の評価</p> <p>W013 ○岡崎 真一郎<sup>1</sup>・有村 聖矢<sup>1</sup>・山崎 真居<sup>2</sup> (大分県北部振興局<sup>1</sup>・大分県農林水産研究指導センター<sup>2</sup>) 殺虫剤抵抗性リスクコミュニケーション2019 - 生産現場からの提唱 -</p>	<p>W021 ○安田 弘法<sup>1</sup>・金子修治<sup>2</sup>・鈴木 紀之<sup>3</sup> (山形大学<sup>1</sup>・大阪環農研<sup>2</sup>・高知大学<sup>3</sup>) 縁尋機妙・昆虫生態学の牽引者から学ぶ(1) 西田隆義さんと愉快的仲間達</p> <p>W022 西田 隆義 (滋賀県立大学環境科学部環境生態学科) 生態学に普遍性を求めて: 見えない相互作用を可視化する</p> <p>W023 鈴木 紀之 (高知大学) 繁殖干渉の研究が盛り上がっていった歴史</p> <p>W024 鶴井 香織 (琉球大・戦略センター) 自然選択は細部にも宿る: ヒシバッタの斑紋は適応か</p>	<p>W031 ○中尾 史郎<sup>1</sup>・土田聡<sup>2</sup> (京都府立大応用昆虫<sup>1</sup>・農研機構果樹茶<sup>2</sup>) アザミウマを知る - これまでとこれからの橋渡し -</p> <p>W032 榎本 雅身 (農林水産省横浜植物防疫所) 最近の日本産アザミウマ相について</p> <p>W033 土田 聡 (農研機構果樹茶) アザミウマ類の遺伝的多様性の解明と分子分類への活用</p> <p>W034 奥田 充 (農研機構中央農研) 日本におけるトスポウイルス発生の現状と防除対策</p>	<p>W041 石川 幸男 (東京大学農学部) 私の研究を顧みて</p> <p>W042 神崎 亮平 (東大先端研) ガ類性フェロモン研究が拓く新しい科学と技術の未来</p>	<p>W051 坪田 拓也 (農研機構生物機能) カイコにおけるゲノム編集研究の最新の動向</p> <p>W052 ○畠山 正統<sup>1</sup>・横井翔<sup>1</sup>・芳山 三喜雄<sup>2</sup>・木村 澄<sup>2</sup> (農研機構生物機能<sup>1</sup>・農研機構畜産<sup>2</sup>) ゲノム編集技術を使ったセイヨウミツバチ改良の試み</p> <p>W053 三戸 太郎 (徳島大学生物資源産業学部) フタホシコオロギを用いた研究におけるゲノム編集技術の活用</p> <p>W054 大出 高弘 (京大院農) 無変態昆虫マダラシミにおけるゲノム編集の現状</p> <p>W055 河本 夏雄 (農研機構) ゲノム編集昆虫の安全性評価と規制の可能性</p>	<p>W061 ○外山 晶敏・岸本英成 (農研機構果樹茶) &lt;w天敵&gt;ハダニ防除体系とは</p> <p>W062 ○舟山 健・小松 美千代 (秋田県果樹試験場) リンゴの土着カブリダニ類を保護利用したハダニ IPM</p> <p>W063 伊藤 慎一 (山形農総研七園試) オウトウにおけるミヤコカブリダニを導入したナミハダニ防除体系の検討</p> <p>W064 ○清水 健<sup>1</sup>・武田 藍<sup>1</sup>・青木 由<sup>1</sup>・福田 寛<sup>1</sup>・中井 善太<sup>1</sup>・園田 昌司<sup>2</sup> (千葉農林総研セ<sup>1</sup>・宇都宮大農<sup>2</sup>) ナシにおけるw天敵を活用したハダニ類防除技術の実証</p> <p>W065 ○澤村 信生・角 菜津子・山本 隼祐 (鳥根県農業技術センター) 施設ブドウの防除体系</p> <p>W066 ○川内 孝太・田代 暢哉・田中 義樹 (佐賀県上場営農センター) ハウスミカンにおけるスワルスキーカブリダニを導入したミカンハダニ防除体系の検討</p>

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場	L会場
<p>W07: 第4回天敵利用を考える会 ~天敵のパフォーマンス強化を理論から考える~ 世話人: 大野和朗、安部順一朗、柿元一樹</p>	<p>W08: 斑点米カメムシ類の分布拡大機構の解明: 個体群生態学から景観、マクロ生態学へ 世話人: 高田まゆら、吉岡明良</p>	<p>W09: 水田の重要天敵ウンカシヘンチュウの可能性を探る(IV) ~放飼導入と分子生物学的モニタリングの可能性~ 世話人: 日鷹一雅、吉田睦浩</p>	<p>W10: 共生微生物と昆虫の研究~過去、現在、未来 世話人: 三浦一芸</p>	<p>W11: アリをめぐる生物種間の相互作用2019 (JISSI 共催) 世話人: 上田昇平、北條賢</p>	<p>W12: 昆虫調査への環境中に残留したDNAの活用法 世話人: 米谷衣代</p>
<p>W071 光永 貴之 (農研機構中央農研) 数理モデルを利用した未来志向型天敵開発アプローチ</p>	<p>W081 ○高田 まゆら<sup>1</sup>・吉岡 明良<sup>2</sup> (東大院農生態調和<sup>1</sup>・国立環境研究所福島支部<sup>2</sup>) 「斑点米カメムシ類の分布拡大機構の解明: 個体群生態学から景観、マクロ生態学へ」趣旨説明</p> <p>W082 田淵 研 (農研機構東北農研) 土地利用に基づいた斑点米被害予測とハザードマップによる広域管理への応用</p> <p>W083 ○渡邊 照之<sup>1</sup>・八尾 充睦<sup>1</sup>・藪 哲男<sup>2</sup>・植松 繁<sup>3</sup> (石川農研<sup>1</sup>・石川県庁<sup>2</sup>・南加賀農林事務所<sup>3</sup>) 地理情報を利用した斑点米カメムシ類の発生リスクマップの作成とそれに伴う防除方法の検討</p> <p>W084 ○山崎 和久<sup>1</sup>・田淵 研<sup>2</sup>・高橋 明彦<sup>3</sup>・大澤 剛士<sup>4</sup>・吉岡 明良<sup>5</sup>・高田 まゆら<sup>1</sup> (東大院農<sup>1</sup>・農研機構東北農研<sup>2</sup>・農研機構中央農研<sup>3</sup>・首都大都市環境<sup>4</sup>・国環研福島<sup>5</sup>) 斑点米カメムシ2種における生活史形質の地理的変異パターンの解明</p>	<p>W091 星野 滋 (広島総研農技セ) 広島県におけるウンカシヘンチュウ増殖への課題について</p> <p>W092 ○日鷹 一雅<sup>1</sup>・永井 一哉<sup>2</sup> (愛媛大学大学院農学研究科<sup>1</sup>・日植防岡山<sup>2</sup>) ウンカシヘンチュウの成体放飼の可能性: 無防除の有機水稲栽培水田間での放飼移住実験から</p> <p>W093 ○吉田 睦浩<sup>1</sup>・木村 貴志<sup>1</sup>・松比良 邦彦<sup>2</sup>・真田 幸代<sup>1</sup>・井上 英明<sup>2</sup> (農研機構九州沖縄農研<sup>1</sup>・鹿児島農開C<sup>2</sup>) ウンカシヘンチュウの卵放飼と分子生物学的検出の試み</p> <p>W085 ○大澤 剛士<sup>1</sup>・山崎 和久<sup>2</sup>・田淵 研<sup>3</sup>・吉岡 明良<sup>4</sup>・須藤 重人<sup>5</sup>・石郷岡 康史<sup>5</sup>・高田 まゆら<sup>2</sup> (首都大都市環境<sup>1</sup>・東大院農<sup>2</sup>・農研機構東北農研<sup>3</sup>・国環研福島<sup>4</sup>・農研機構農環研<sup>5</sup>) レガシーデータを再利用してアカスジカスミカメの分布拡大メカニズムに迫る</p>	<p>W101 佐々木 哲彦 (玉川大学ミツバチ科学研究センター) 共生細菌ボルバキアのゲノムに潜むバクテリオファージの解析: 昆虫、細菌、ファージの3者からなる複合共生系の戦略</p> <p>W102 陰山 大輔 (農研機構生物機能) チョウ目昆虫のW染色体と共生細菌ボルバキアとの関係についての進化的考察</p> <p>W103 ○林 正幸<sup>1,2,3</sup>・野村 昌史<sup>3</sup>・陰山 大輔<sup>4</sup> (農研機構西日本農研<sup>1</sup>・琉球大農<sup>2</sup>・千葉大園芸<sup>3</sup>・農研機構生物機能<sup>4</sup>) クサカゲロウにおけるオス殺し細菌に対する急速な抵抗性進化</p> <p>W104 三浦 一芸 (農研機構西日本農研) 共生微生物によるhaplodiploidとZW型の進化</p>	<p>W111 矢後 勝也 (東京大総研博) シジミチョウ科幼虫における好蟻性器官の多様性</p> <p>W112 小松 貴 (国立科学博物館) アリに寄り添う奇妙な方類</p> <p>W113 中田 勝之 (農林水産省北陸農政局) 石川県白山国立公園区域内の好蟻性アリゾカムシ類の分布記録 ~特にゴジラツノアリゾカムシ等の再発見について~</p>	<p>W121 ○米谷 衣代<sup>1</sup>・潮 雅之<sup>2</sup> (近畿大学農学部<sup>1</sup>・京大白眉/生態研セ<sup>2</sup>) 植物上に残留する節足動物のDNAを検出する方法の開発</p> <p>W122 潮 雅之<sup>1,2,3</sup> (京大白眉/生態研セ<sup>1</sup>・京大生態研セ<sup>2</sup>・JST さきがけ<sup>3</sup>) 環境DNAを利用した昆虫・微生物動態の把握およびイネ栽培への応用</p>

A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場
<p>W13: リモニカスカブリダニの利用に関する小集会(ここまでわかったリモニカス) 世話人: 山中聡、光畑雅宏</p>	<p>W14: 第7回昆虫ホルモン談話会: 篠田徹郎博士退職記念集会「幼若ホルモン研究のこれまでとこれから」 世話人: 丹羽隆介、大門高明</p>	<p>W15: カイコと近縁蛾類のバイオリソースとゲノム-NBRPプロジェクトの取組み 世話人: 嶋田透、木内隆史</p>	<p>W16: 視覚イメージを利用した害虫管理を学ぶ会 ~光防除の実用化における現状と課題~ 世話人: 堀雅敏、弘中満太郎、八瀬順也</p>	<p>W17: 殺虫剤作用機構談話会 世話人: 園田昌司、水口智江可、山本敦司</p>	<p>W18: 最新研究ツールによる生物音響学: 数理モデルから害虫防除まで 世話人: 高梨琢磨、中野亮</p>
<p>W131 柿元 一樹(鹿児島農総C) リモニカスカブリダニの応用上の特徴と留意点</p> <p>W132 ○里見 純・光畑 雅宏・山中 聡(アリスライフサイエンス) 各種作物に対するリモニカ(リモニカスカブリダニ)の実証圃試験事例</p>	<p>W141 ○松本 圭司<sup>1</sup>・齊木 選射<sup>2</sup>・嘉糠 洋陸<sup>2</sup>・沼田 英治<sup>3</sup>・小瀧 豊美<sup>4</sup>・品田 哲郎<sup>1</sup>・後藤 慎介<sup>1</sup>(大阪市大 院理<sup>1</sup>・慈恵医大医<sup>2</sup>・京大院理<sup>3</sup>・農研機構<sup>4</sup>) カメムシ類における幼若ホルモン構造の網羅的な解析</p> <p>W142 丹羽 隆介(筑波大学 生命環境系) ショウジョウバエにおける幼若ホルモンの生理機能研究の最近の動向</p> <p>W143 篠田 徹郎(農研機構 生物機能) 幼若ホルモンの生合成と作用機構—これまでの研究生活を振り返って—</p>	<p>W151 ○伴野 豊<sup>1</sup>・福森 寿善<sup>1</sup>・藤井 告<sup>1</sup>・嶋田 透<sup>2</sup>・木内 隆史<sup>2</sup>・梶浦 善太<sup>3</sup>(九州大学 大学院農学研究院<sup>1</sup>・東京大学大学院農学生命科学研究科<sup>2</sup>・信州大学繊維学部<sup>3</sup>) NBRP カイコにおける研究者向け事業(サービス)と進む凍結保存技術の現況</p> <p>W152 ○藤井 告<sup>1</sup>・山本 和典<sup>1</sup>・西川 和弘<sup>1</sup>・田村 圭<sup>1</sup>・太田 幸一<sup>1</sup>・伴野 豊(九州大学 大学院農学研究院) Cas9 タンパク質とp55 系統を活用した効率的なカイコのゲノム編集</p> <p>W153 ○李 允求<sup>1</sup>・木内 隆史<sup>1</sup>・豊田 敦<sup>2</sup>・嶋田 透<sup>1</sup>(東京大学院 農昆虫遺伝<sup>1</sup>・国立遺伝学研究所<sup>2</sup>) エリサンとシンジュサンのゲノム解析</p> <p>W154 ○内海 俊彦<sup>1</sup>・小林 淳<sup>1</sup>・守屋 康子(山口 大院創成科) カイコ BmN4 細胞を用いた遺伝子導入・遺伝子発現観察キットの開発</p>	<p>W161 ○横尾 暢哉<sup>1</sup>・美山 和宏<sup>1</sup>・三木 剛嗣<sup>1</sup>・俊藤 浩史<sup>1</sup>・布施 利紀<sup>1</sup>・青木 雄佑<sup>1</sup>・勝藤 良輔<sup>1</sup>・井上 弘(アース環境サービス 株式会社彩都総合研究所 研究開発センター) 室内用光捕虫器の工場現場での活用事例紹介</p> <p>W162 ○中野 昭雄<sup>1</sup>・田中正彦<sup>2</sup>(徳島農総技セ<sup>1</sup>・(株)ネイブル<sup>2</sup>) LED光を利用したタバコカスミカメ捕集装置の特徴と開発経緯</p>	<p>W171 ○横井 翔<sup>1</sup>・上樂 明也<sup>2</sup>・浅野 美和<sup>2</sup>・秋月 岳<sup>3</sup>・内山 徹<sup>4</sup>・小澤 朗人<sup>4</sup>・篠田 徹郎<sup>2</sup>(農研機構 農業情報研究センター<sup>1</sup>・農研機構 生物機能<sup>2</sup>・農研機構九州沖縄農業研究センター<sup>3</sup>・静岡県 農林技術研究所茶業研究センター<sup>4</sup>) チャノココクモンハマキにおけるジアミド系殺虫剤抵抗性原因遺伝子および遺伝子マーカー用 SNP の探索</p> <p>W172 ○武内 晴香<sup>1</sup>・野村 昌弘<sup>1</sup>・浅野 周<sup>2</sup>・三宅 孝明<sup>2</sup>(Meiji Seika ファルマ株式会社<sup>1</sup>・日本化薬株式会社<sup>2</sup>) フロメトキンの作用機作研究—呼吸鎖阻害剤作用機作研究—</p>	<p>W181 中野 亮(農研機構 果樹茶部門) 最新研究ツールが解き明かすガ類・求愛超音波の発音メカニズムと機能</p> <p>W182 合原 一究(筑波大学) カエルの合唱構造と寄生者との関係</p> <p>W183 ○浦入 千宗<sup>1</sup>・星 貴之<sup>2</sup>・太田 泉<sup>1</sup>(農研機構 野菜花き研究部門<sup>1</sup>・ピクシーダストテクノロジーズ<sup>2</sup>) 集束超音波を用いた微小害虫防除技術の開発</p>

G会場	H会場	I会場	J会場	K会場
<p>W19: 青果物への虫の混入問題の深刻化 世話人: 小林政信</p>	<p>W20: ニセナシサビダニによるナシのモザイク症(ウイルス様症状)の発生実態とウイルスの関与 世話人: 久保田健嗣、土田聡</p>	<p>W21: テンサイシストセンチュウの発生経過と取り組み 世話人: 岡田浩明</p>	<p>W22: 生物時計と行動を結ぶメカニズム 世話人: 淵側太郎、藤岡春菜</p>	<p>W23: 第25回 ICIPE 研究報告会—アフリカ昆虫学の夕べ 世話人: 足達太郎</p>
<p>W191 小林 政信(全国農業協同組合連合会) なぜ虫の混入が問題となるのか?</p> <p>W192 小谷 信司(山梨大学) 虫の存在を検知する技術の発達</p> <p>W193 荻野 武(キューピー株式会社) 食品工場での虫の混入実態と農業生産者への要望</p>	<p>W201 ○神山 光子<sup>1</sup>・杉浦直幸<sup>2</sup>(熊本農研セ果樹研<sup>1</sup>・熊本県庁<sup>2</sup>) 熊本県におけるニホンナシのモザイク症発生様式および防除適期について</p> <p>W202 古俣 彦衛<sup>1</sup>・○堀川拓未<sup>2</sup>・横山 泰之<sup>2</sup>・棚橋 恵<sup>2</sup>(新潟園芸研<sup>1</sup>・新潟防除所<sup>2</sup>) 新潟県のセイヨウナシにおけるニセナシサビダニの初確認とモザイク症葉および果実のサビ症について</p> <p>W203 ○上遠野 富士夫・鍵和田 聡(法政大学生命科学部) ニセナシサビダニの越冬および越冬後の生態</p> <p>W204 ○久保田 健嗣<sup>1</sup>・土田 聡<sup>2</sup>(農研機構中央農研<sup>1</sup>・農研機構果樹茶業研究部門<sup>2</sup>) ナシのモザイク症に対する新規エマラ様ウイルスの関与</p>	<p>W211 岡田 浩明(農研機構中央農研) テンサイシストセンチュウの発生経過と取り組み</p> <p>W212 ○金子 政夫・北林聡(長野県野菜花き試験場) テンサイシストセンチュウに対する薬剤効果試験における評価手法の検討</p> <p>W213 ○北林 聡<sup>1</sup>・岡田 浩明<sup>2</sup>・植原 健人<sup>2</sup>・金子 政夫<sup>1</sup>(長野県野菜花き試験場<sup>1</sup>・農研機構中央農研<sup>2</sup>) 孵化促進液を用いたベルマン法によるテンサイシストセンチュウの定量的評価</p> <p>W214 ○岩堀 英晶<sup>1</sup>・浅水 恵理香<sup>1</sup>・中村 慎崇<sup>1,2</sup>(龍谷大学農学部<sup>1</sup>・森林総合研究所<sup>2</sup>) テンサイシストセンチュウの侵入源と侵入経路の推定およびDNAによる土壌密度推定法</p> <p>W215 ○植原 健人・立石 靖・岡田 浩明(農研機構中央農研) おとり作物を用いたテンサイシストセンチュウの密度抑制について</p>	<p>W221 ○淵側 太郎<sup>1</sup>・藤岡春菜<sup>2</sup>・(大阪市立大理<sup>1</sup>・東京大総合文化<sup>2</sup>) 生物時計と行動を結ぶメカニズム: はじめに</p> <p>W222 吉井 大志(岡山大院自然科学) キイロシヨウジョウバエ概日行動リズムを制御する神経回路</p> <p>W223 ○富田 淳・坂 豪祐・加藤 善章・糸 和彦(名古屋市大院薬) シヨウジョウバエの睡眠覚醒を制御する中心複合体の神経回路</p> <p>W224 武方 宏樹(琉球大学戦略的研究プロジェクトセンター) マングローブスズの概潮汐リズムを生み出す神経メカニズム</p>	<p>W231 坂本 洋典(国立環境研究所) オス同士が闘うオオキバドロバチ <i>Synagris comuta</i> のカメルーンにおける生態</p> <p>W232 小林 大介<sup>1,2</sup>(感染研昆虫医科学<sup>1</sup>・日本医療研究開発機構<sup>2</sup>) ガーナ共和国で流行する節足動物媒介ウイルス感染症の実態解明に向けた基盤的研究</p> <p>W233 東城 幸治<sup>1,2</sup>(信州大学学術研究院理学系生物学領域<sup>1</sup>・信州大学先鋭領域融合研究群馬岳科学研究所<sup>2</sup>) カカトアルキ Mantophasmatodea 研究の現状</p>